

## 地対協コーナー

新型コロナウイルス感染症は「緊急事態宣言」の発出後は全国的に感染者数が減少しましたが、7月より再び新規感染者数が増加しています。地対協においても協議・検討を行わなければならない課題は多くあるものの、感染拡大に留意した運営が求められていると思います。今後も、感染状況を注視しつつ適切な時期に、また、Web会議の使用などを検討し、各委員会・WGにおいて目標の達成に向けて取り組んでまいります。引き続き格別のご指導・ご協力をお願いします。

さて、今号は6月、7月に開催された委員会の報告をお届けします。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の委員会活動などは、地対協ホームページ(<http://www.citaikyo.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

### ○第1回ACP普及促進WG

日時：令和2年6月8日(月)19時00分

場所：広島県医師会館3階 301会議室

WG長：本家 好文

令和元年度の活動報告の後、令和2年度の活動内容について協議・意見交換を行った。また、昨年度より内容を検討しているACP普及推進員養成について広島県より説明および意見聴取があった。

#### 協議・報告事項

#### (1) ACP(人生会議)に関する調査について

平成29年度の前回調査以降、本WGにおいてACPの手引き第3版の発行(平成30年度)、ACP(手引き)説明ツール、ACPのポスターの発行(令和元年度)や法律・倫理に関するACPの研修会を開催するなど、普及啓発に取り組んでいる。

今般、3年間の取り組みからACPに関する活用・普及状況の実態比較を行うための調査を実施することとした。項目については、前回の調査との比較を行うことを目的に、修正は行わず新たに普及に関する阻害因子項目とその他として自由記載項目を追加する事とした。また、対象についても比較調査のため前回同様に広島県医師会A会員を対象として実施することとし、広島県医師会B会員やその他医療介護専門職への調査については今後検討することとした。

委員からの意見をもとに本家WG長と事務局で調査票について調整し、MLなどで委員へ確認を行い、9～10月での調査実施を目指すこととした。

#### (2) ACP(手引き)説明ツール(県民)の作成について

昨年度、ACPについて講演を行う際に、多く

の方から説明資料がほしいとの意見からACPの手引きなどをベースに医療・介護関係者が研修会などで利用することを目的に説明ツールを作成した。今回、一般(県民)向けのツールの作成について意見を諮った。協議の結果、作成した説明ツールはACPを説明する上で押さえておいてほしいポイントをまとめた柱となる資料のため、別途作成はせず、HP上で説明ツールの使用に関する注意書きを加え、説明ツール使用者が対象に応じて編集することも差し支えないことを確認した。

#### (3) ACPの普及推進員の養成について

広島県地域包括ケア・高齢者支援課よりACPの普及推進員について説明があった。各委員からは①普及推進員の活動内容等においてハードルが高い②普及推進員にどこまで求めるのか③市町での取組状況が異なるため、先進的に進めている市町と実施内容が重複する④修了書の配布、などの意見があったほか、普及推進員の養成という形ではなく、ACPに関する統一の認識を持ってもらうことをポイントに説明ツールを用いた研修会の開催などの意見もあった。本WGでの意見を集約し、広島県が修正することとなった。

### ○第1回産科医療体制検討専門委員会

日時：令和2年7月15日(水)19時30分

場所：広島県医師会館3階 301会議室

委員長：工藤 美樹

昨年度、本委員会で作成した産科医療提供体制に関するアンケート調査の結果について報告し、県内の産科医療体制の現状や課題について情報共有と意見交換を行った。また、今後の産

科医療体制の集約化・重点化に向けた議論の進め方について確認した。

工藤委員長より、「約10年前に産科医療提供体制の改革(県内分娩体制の集約化)が行われたが、現在ではその体制が維持できないとの声が上がっている。今後は県内の現状を見直し、サステナブルな提供体制をつくり維持していかなくてはならない。本委員会において産科医療体制のあり方の素案を作成し、それに基づいて行動していきたい」と挨拶があった。

#### 報告事項

##### (1) 産科医療提供体制に関するアンケート調査結果について

広島県医療介護人材課より、昨年度に本委員会にて作成した広島県内の分娩取扱医療機関(48施設)を対象とした産科医療提供体制に関するアンケートの調査結果について説明があった。

本県では、今後の分娩取扱継続見込の期間について、医師の高齢化等の理由により「1年以内に閉院予定」と回答した有床診療所が2施設あるなど、今後の分娩取扱施設の減少が見込まれている。また調査結果において、医療機関における現状や課題として、産婦人科医の不足、人材育成のほか、働き方改革や分娩数の減少などに伴う経営環境の悪化などの懸念が示された。圏域内における連携体制においては、圏域内での分娩施設の偏在や、既存の産婦人科の閉院などによる他施設の分娩数の増加、マンパワーの不

足のほか、県外への搬送対応などの現状・課題が挙げられた。

また県全体における集約化・重点化については、多くの医療機関が産婦人科医の不足、負担軽減、女性医師の増加、医療レベルの維持などから、集約化は必要との認識を示しているとの結果が示された。

アンケート調査結果を受け、出席委員からも各圏域の状況について報告いただき、県内の医療提供体制の現状について共有した。マンパワー不足は課題であるが、現状において産婦人科医の増加は見込めない一方、働き方改革も推進されており、今後、集約化は必要であるとの意見のほか、集約化・重点化に向けた課題として、医療の受け手側の理解も重要であり、セミナーなどの実施によりお互いの理解を深めた上で実施する必要があるとの指摘があった。

##### (2) 産科医療提供体制のあり方に係る今後の議論の進め方について

産科医療提供体制のあり方に係る今後の議論の進め方について説明があった。今後は9月に第2回委員会を開催し、産科医療体制のあり方についての素案のとりまとめを行う。その後、必要に応じて各圏域にて協議を行った後、1月頃に第3回委員会にて最終案をとりまとめる予定である。

## 県地对協からの提供資料について

県地对協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

#### 【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.7」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.3」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- C型肝炎「わたしの手帳」 など

#### 【パンフレット・マニュアル】

- 肺結核、忘れないで
- 広島県のつづが虫病と日本紅斑熱について
- 海外で気をつける蚊媒感染症 デング熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、チクングニア熱、マラリア
- 麻しんと風しん 大人も注意!
- 医療従事者等における体液曝露事故後のHIV感染防止マニュアル
- ACPの手引き 「豊かな人生とともに…」

【事務局】広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp

